

令和6年度 広島平和記念式典派遣事業

平和大使 活動報告書



撮影/小池中学校 田野口茉緒

「非核平和都市宣言」 (平成18年12月25日)

美しい自然を愛し平和を願う心は人類共通のものです。

これを根底から揺るがし、地球環境と人類の平和を脅かす核兵器は絶対に容認できません。

世界でただ一つ悲惨な体験をした被爆国の国民として、核兵器の廃絶と非核三原則をいま一度世界に向け強く訴えていかなければなりません。

人と自然と産業が調和しながら進化するまちづくりをめざしている燕市は、新市誕生を機として、決意を新たに世界の恒久平和を願い、ここに「非核平和都市」を宣言します。

燕 市

目 次

I	広島平和記念式典派遣事業実施にあたって・・・・・・・・・・	1
II	ごあいさつ・・・・・・・・・・	2
III	令和6年度 広島平和記念式典派遣事業 日程・・・・・・・・・・	3
IV	研修レポート・・・・・・・・・・	4
	① 出発式 平和大使決意表明	
	② 平和大使レポート	
	燕中学校 渡邊 恭嘉	
	小池中学校 田野口 茉緒	
	燕北中学校 富岡 來愛	
	吉田中学校 森 口 迅	
	分水中学校 須田 琳音	
	③ 引率者レポート	
	学校教育課 指導主事 小林 大介	
	学校教育課 学事保健係 主任 八子 芽生	
V	広島平和記念式典派遣事業の概要・・・・・・・・・・	26
VI	広島平和記念式典派遣事業の様子・・・・・・・・・・	28

広島平和記念式典派遣事業実施にあたって

燕市長 鈴木 力

広島・長崎の被爆の悲劇から、79年が経ちました。戦争を知らない世代も増え、悲惨な記憶を風化させることのないようにしなければなりません。私たちは、今日、享受することのできる平和と繁栄が、戦争による尊い犠牲の上に築かれているということを、世界でただ一つの被爆国の国民としてしっかりと理解し、後世に永遠に語り継いでいくことを大切にしなければなりません。

令和6年12月、日本原水爆被害者団体協議会にノーベル平和賞が授与されました。「核と人類は共存できない」と地道に訴えてきた同団体の活動が評価されたのです。喜ばしい知らせであると同時に、核使用は二度と許されないという「核のタブー」が壊されようとしている、世界の現状へ警鐘を鳴らす受賞でもありました。今なお、戦争や地域紛争、あるいはテロ行為によって、多くの人々の尊い命が失われています。

燕市は、核兵器のない真の世界恒久平和が実現することを願い、平成18年12月25日に「非核平和都市」を宣言しました。そして、平成20年度から広島平和記念式典へ燕市内中学校5校の代表生徒の派遣を始め、コロナ禍による派遣中止をはきみ、今回で15年目を迎えました。

生徒たちは、平和大使として、各学校で制作した千羽鶴の奉納、広島平和記念資料館や原爆ドームなどの見学、被爆体験講話の聴講などを体験してきました。報告会では、生徒たちが直接目と耳で学び、肌で感じてきたこと、そして一人一人が考えた「平和を実現するために必要なこと」を市民の方々へ発表してくれました。

平和大使たちには、これからも、体験し、感じたことを学校、家庭、地域、そして世界へ向けて発信するとともに、平和の大切さ、命の尊さについて考える機会をさらに広げ、自らできることを考え、積極的に行動してほしいと思います。まずは、相手の気持ちを思いやること、人の痛みを理解することが、その第一歩だと思います。今後の平和大使の活躍に期待しています。

終わりに、今回の事業実施にあたり多くの方々からご協力を賜わりましたことに、心から御礼を申し上げます。

ごあいさつ

燕市教育委員会教育長 小林 靖直

燕市では、非核平和の推進と平和学習活動の一環として、平成20年度から毎年、市内5つの中学校の代表生徒を平和大使として広島へ派遣しています。平和大使は、広島平和記念式典へ出席するとともに、各中学校の生徒たちが、戦争の犠牲となられた方々の冥福をお祈りし、平和への願いを込めて作った千羽鶴を「原爆の子の像」に奉納してきました。

私たちは、広島原爆投下について、学校での学び、テレビ、新聞などでの報道から、亡くなられた方の数や当時の惨状などを知っています。しかし、実際に広島市を訪ね、広島平和記念式典に参列し、その日その場所を訪れないと感じることのできないもの、教科書や新聞などの文字や写真だけでは伝わらないことを、私たちに教えてくれます。

今回、平和大使として広島へ派遣された5名は、五感を働かせ、現地を訪ねたからこそ分かること、感じられることなどをたくさん吸収してきました。戦争や平和について考え、この平和を守っていくために、できることから行動し、未来をつくろうという思いが、この報告書を読んでいただければ伝わるものと思います。

終戦から79年が経ち、その歴史を私たちに伝えてくれる語り部の方も年々少なくなってきました。貴重な体験をしてきた平和大使の皆さんには、戦争や核兵器の使用という過ちを二度と繰り返さぬよう、学んだこと、感じたこと、そして平和の尊さを未来の世代にしっかりと伝えてほしいと願っています。

最後になりますが、広島平和記念式典派遣事業を開催するにあたり、平和大使の皆さんを快く送り出してくださった保護者の方々、ご支援、ご協力いただいた方々に感謝を申し上げ、ごあいさつといたします。

令和6年度 広島平和記念式典派遣事業 日程

事前研修 7月26日(金) 18:30 ~ 19:30

- ◇ 参加者・引率者自己紹介
- ◇ 広島平和記念式典派遣事業について
 - ・事業概要説明(目的・活動内容等)
 - ・当日までの準備



1日目 8月5日(月)

- ◇ 出発式(燕市役所) 6:50 ~ 7:10
- ◇ 移動(燕三条~広島) 8:08 ~ 14:27
- ◇ 被爆体験講話(広島市青少年センター) 15:00 ~ 16:30
- ◇ 平和記念公園 16:45 ~ 19:00
 - ・千羽鶴奉納(原爆の子の像)
 - ・広島平和記念資料館見学
- ◇ ホテルにてミーティング 20:30 ~ 20:40



2日目 8月6日(火)

- ◇ 広島平和記念式典参加 8:00 ~ 8:50
 - ・原爆死没者名簿奉納
 - ・献花、黙とう
 - ・平和宣言(広島市長)
 - ・平和への誓い(こども代表)
 - ・来賓あいさつ
 - ・ひろしま平和の歌(合唱)
- ◇ ボランティアガイドによる公園内見学 9:30 ~ 11:00
- ◇ 広島原爆死没者追悼平和祈念館見学 13:00 ~ 14:00
- ◇ ヒロシマの心を世界に2024見学 14:30 ~ 15:30
 - ・広島市立舟入高等学校演劇部による演劇鑑賞
- ◇ とうろう流し受付 16:00 ~ 16:30
- ◇ 平和記念公園内を見学 16:30 ~ 17:30
- ◇ とうろう流し 19:15 ~ 19:45
- ◇ ホテルにてミーティング 20:00 ~ 20:15



3日目 8月7日(水)

- ◇ おりづるタワー見学 10:00 ~ 11:30
- ◇ 移動(広島~燕三条) 12:18 ~ 18:29
- ◇ 解散(燕三条) 18:45



研修レポート

① 出発式 平和大使決意表明

② 平和大使レポート

燕中学校 渡邊 恭嘉

小池中学校 田野口 茉緒

燕北中学校 富岡 來愛

吉田中学校 森 口 迅

分水中学校 須田 琳音

③ 引率者レポート

学校教育課 指導主事 小林 大介

学校教育課 学事保健係 主任 八子 芽生

令和6年度 広島平和記念式典派遣事業 出発式 平和大使決意表明

■燕中学校：渡邊 恭嘉

私は今回の派遣で、戦争の恐ろしさや平和の尊さについてたくさん学んできたと思います。また、戦争をなくすために自分にできることや、平和について考えを深めることのできる良い経験にしたいです。学んできたことや考えたことを燕市民の方にしっかりと伝えられるように頑張りたいです。

■小池中学校：田野口 茉緒

実際被爆した地である広島に行き、戦時中の被害の状況を知り、平和に暮らせることの尊さを学び、みんなが平和に暮らせるために行動すべきことを地域の方々などに伝えられるよう、今回の広島派遣で経験させていただけることは全力で挑み、学んで行きたいと思っています。

■燕北中学校：富岡 来愛

燕市の代表として、戦争がどれだけいけないことか、どれだけ恐ろしいものなのかをしっかりと学び、平和への理解を深め沢山の人に伝えられるよう様々なことを学んできたいと思います。有意義な3日間にできるよう頑張ってきます。

■吉田中学校：森口 迅

広島に行って、平和とはなにか、生きるという事はなにかを考えてきます。行ってきます。

■分水中学校：須田 琳音

私はこの広島派遣を通し、私達にとっての平和とは何かを考え、その平和に向けてできる取り組みをしていきたいと思っています。そして自分の考える戦争の恐ろしさと平和のありがたみを多くの人に伝えていきたいと思っています。

1. 事前学習「太平洋戦争戦時下の生活」

(1) 配給・衣料切符による購入の制限

戦争が長期化するとともに国内では物資が不足し、国民生活は次第に圧迫されていきました。物資の不足は深刻さを増し、砂糖、塩、米などの食料は国の決めた量しか買えない配給制となりました。また、シャツや靴下などの衣料品は、お金で買うことができなくなりました。代わりに国が各家庭に配った衣料切符で交換するようになりました。やがて、衣料品だけでなく毛布やタオルといった生活用品も、決められた切符の分しか手に入れることができなくなっていきました。

(2) 戦時中の子どもたちの生活

国民は一致団結して戦争に臨むために、近所の10軒前後の世帯を一組として隣組を結成し、月に一度常会という集まりを開いて、国から出されるさまざまな方針を伝えたり、話し合ったり、また、防災訓練等を行っていました。子どもたちもこのような活動に参加したり、また、双六やカルタ、子ども向け雑誌等といった遊びの中にも戦時色が色濃く反映され、戦意高揚に利用されていました。

(3) 私が考えたこと

戦時中、戦争を続けるために国民は苦しい生活を強いられ、隣組による監視や、子どもの遊び道具といったもので国民が戦争をやめたいと思ってもやめられなかったり、戦争に賛成させるように工夫されていたと知りました。このような生活は、国民の気持ちが政府に反映されることがなく、つらく苦しいものだったのではないかと思います。

〈引用サイト〉

戦争と国民生活 ～日中戦争・太平洋戦争～ | 10min. ボックス 日本史 | NHK for School

知ってるかな? 戦中の暮らし ～子どもたちの一日～ - 昭和館

戦時中の少年誌をしてみよう | オモコロブロス!

2. 学びの記録「広島平和記念式典」

2日目の朝、私達は「広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式(広島平和記念式典)」に参列しました。今回は世界各地から多くの参列国が訪れ、109 各国と EU が参加しました。

(1)印象に残ったこと

私は、広島県知事のお話が印象に残りました。弥生時代というはるか昔から続いている戦争についてや、核廃絶に向けた取り組みの改善などについてのお話でした。私は最後におっしゃっていた『「過ちは繰り返しませぬから」という誓いを、私たちは今一度思い起こすべきではないでしょうか。』という言葉がずっと頭から離れません。また、広島市長のお話は、核の問題は後回しにしてはいけない、「今」のことなのだと強く訴えかけられました。

(2)参列し考えたこと

私は、この式典でこども代表の「平和への誓い」を聞いて、非常に心を動かされました。広島市内の小学校に通う6年生の2人が、平和記念式典に集まった様々な国の人に、広島・長崎に落とされた原子爆弾のおもさを伝えてくれました。79年前の広島で、「普通」の暮らしはたった一つの爆弾によって一瞬にして奪われたのです。

被爆者の方々は、言葉にすることさえつらく悲しい記憶に今もお苦しめられています。ですが、被爆者の方々は思い出したくもない記憶を私達に語ってくれています。それは、「誰にも二度と同じ苦しみを味わってほしくない」という強い思いからです。私達は、今一度「戦争」について、「原爆」について、考えるべきではないかと思いました。戦争をしないために、私達には『話し合う』ことや『互いを理解し合う』ことができるはずです。私たち一人一人が意識することで、世界は変えられるはずです。



〈写真/広島平和記念式典の様子〉

3. 学びの報告

私はこの3日間、とても貴重な経験をさせていただきました。今まで歴史の中の話でしかなかった戦争や原爆が、とても身近に感じられ、自分たちが考えていかなければならないことなのだ実感しました。

(1) 被爆体験講話

実際に被爆し、私たちに被爆体験講話をお話してくださった花谷さんは最後に、『核兵器と人類は共存できない』、女の人や子どもすらも殺してしまうような兵器はあってはいけないとおっしゃっていました。また、花谷さんのお話のいたるところから原爆への恐怖と私たちに原爆のことを伝えたいという思いが伝わってきました。花谷さんは核兵器がなくなることを強く願っていました。そしてそのことが被爆体験講話を始めた理由なのだそうです。

(2) 灯籠流し

8月6日の夜、79年前のこの日多くの人が水を求め飛び込んだ川に追悼や平和の意を込めた灯籠を流しました。多くの人がこの川を訪れ、平和を願っていました。また、灯籠に願いを込め、これからの平和を祈りました。川に映し出された原爆ドームと川を流れる灯籠は今の平和の有り難さを教えてくれました。川を流れる色とりどりの灯籠は、とても美しく、私たちの願いを未来まで届けてくれるだろうと思いました。



(3) おりづるタワー

おりづるタワーからは原爆ドームを含む広島街全体を見下ろすことができました。とても絶景で、言葉で表すことのできないほどでした。広島のみならず、79年前からはきっと考えられないほど復興し、そして世界に平和を訴え続けていると思います。また、私たちは折り鶴を折り、おりづるタワーに折り鶴を奉納してきました。101万羽以上おりづるタワーの中に折り鶴があるそうです。

(4) 最後に

私は今回、広島へ行かせていただいて、数え切れないほど貴重な経験をさせていただきました。そしてこの経験は、これからの生活に活かせることばかりでした。

広島に原子爆弾が落とされてから8月6日で79年を迎えました。被爆者の平均年齢は85歳を超え、戦争や原爆を知る人も少なくなっています。そんな今だからこそ、私たちが戦争や原爆について考えるべきです。

私は今回経験したことを、多くの人へ伝え、少しでも私が感じたことを共有できたらいいなと思います。そして、みんなで考えていきたいと思っています。

1. 事前学習

(1)核兵器禁止条約

2017年7月ニューヨークの国連本部で122ヶ国が賛成し採択されたもの。この数は全ての国連加盟国の三分の二近くになる数。

条約に参加する国々が核兵器を開発、実験、生産、移転、保有、備蓄、使用または脅し、他国のものを自国の領土に配備させることを禁止している。

禁止するだけでなく被爆者を援助することも義務付けている。

ロシア、アメリカ、中国、フランス、イギリス、パキスタン、インド、イスラエル、北朝鮮、日本の「拡大核防止(核の傘)」のもとにある国々は参加していない。

(2)核の傘とは

核兵器を所持している国が核兵器を持たない同盟国の安全を守ること。ただし一度も適用されたことはない。

(3)日本が持たない理由

NPTは核兵器国(米露英仏中の五ヶ国)に限ってではあるが核兵器を持つ権利を認めたもの。条約名の核拡散防止はこの五ヶ国以外は核を持ってはならないという意味でもある。日本にとっては同盟国の米国の核保有を認めた条約であり、核の傘と矛盾しないため、NPTには積極的だが、核禁条約には参加しない。

(4)自分の考え

日本は核廃絶を目指しており、核爆弾の被害を被り、核の危険性を十分に理解しているが、現在北朝鮮がミサイルを打って来たり、実際に危険な状況になったとき、守ってくれる国がいるというのは安心だから、核廃絶を目指す、核禁条約には参加しなくてもいいと思う。もちろん、二度と広島や長崎のような被害を繰り返したくはないが、米国の助けがなくなれば、今後もっと日本が危険にさらされるかもしれない。そう考えると今のままでいいと思う。だが、いつかは核兵器に頼らずとも、全部の国が核兵器を手放し、戦争もなく安全に暮らせるようになったらいいと思う。

〈参考・引用サイト〉

毎日新聞(首相が広島出身なのに…日本が核禁条約に参加しない理由)

日本生活協同組合連合会(核兵器禁止条約とは？-ピースアクションとは?)

(5)原爆の被害・惨状

中心点より500メートルの地点では中心部と推定される場所付近の電柱及び樹木の倒壊、傾斜は少なく、民家は粉碎されている。コンクリート道路は数か所亀裂が生じた。鉄筋、

電柱、樹木は中心点より各外方に向かい、放射線状に倒壊していた。同県内において屋内屋外ともに生存するものを認めなかった。

中心点より半径 1000 メートルの圏内では木造建民家は全く原型を認められなかった。

農作物は地上に露出した部分は全部燻焦していたが地中の部分は燻焦を免れた。水稻は水辺部分及び上部のみが燻焦していた。

中心点より半径 1500 メートルの圏内は竹の久保変電所は直接爆風に当たったものと認められ、北部の鉄柱、鉄枠は南部または西部に向かい倒壊していたが鉄筋コンクリートの建物はガラスが破損したほか内外ともに異常はなかった。

中心点より半径 2000 メートルの圏内では木造家屋は全て倒壊。横穴式防空壕は内外ともに異常なし。半径 2000 メートル以上の区域では民家は中心部より焼く 2000 メートルの程度より逐次破壊力が減少していた。

被害状況

死者 73884 人

重軽傷者 74909 人

全焼 11574 戸

全壊 1326 戸

半壊 5509 戸

〈引用サイト〉

ながさきの平和(原爆の威力 | 原爆の惨状 | ながさきの原爆 | 調べる)

2. 学びの記録「被爆体験講話」

今回講話をしてくださった花谷様は3歳で被爆しました。花谷様は姉が3人、父、母の6人家族でした。ですが、一発の原子爆弾により、姉を一人失うことになってしまったのです。

(1) 落とされたときの様子

8時15分、ドーンという音がし、キノコ雲が約1万メートルまで上がりました。雷が落ちたような音で、軍事工場がやられてしまったそうです。その時、広島にはおよそ35万人がいたと考えられています。そのうち約14万人が1945年のうちになくなったと言われています。ですがあまりにも規模が大きく、正確な数字はわからないといえます。その中には外国人も多く含まれていました。

(2) 旅館での様子

花谷様の家は旅館を営んでおり、被爆した際は人が押し寄せたそうです。本来20人でいっぱいだった旅館ですが、その時にはなんと50人が泊まったそうです。トイレには血がついていたりひどい惨状。けが人の方は立派な治療は受けられず、五人で看護していましたが、ウジ虫がわき、ハエが飛ぶため、花谷様はその虫を取ったりしていたそうです。

花谷様のお姉様の一人は、腕に少し怪我した程度で、最初の2日間は大丈夫だったそうですが、血を吐いたり、40度の熱が一週間続いたりし、8月27日、白血病でなくなっていました。まだ14歳だったといいます。そのお姉様は、死ぬ間際、自分が亡くなる時はわかる。ゆっくりと生きてほしいとおっしゃっていたそうです。



(3)原爆投下のその後

原爆の影響で、父や母がいるのは、クラスでも何人かしかいないという状況になりました。そんな沢山の命を奪っていった原爆を作った方は、相当後悔しており、何度も被爆者に謝っておられたそうです。戦争とは一体何の意味があつてするのでしょうか。

(4)核兵器を所持し続けることについて

現在、日本は核兵器禁止条約に参加していません。そのことについて花谷様は、やはり参加してほしいとおっしゃっていました。核兵器廃絶を目指すために、私達にもできることはあります。身の回りの人でもいいから原爆投下の惨状などを伝えていくことです。現在被爆者の平均年齢は上がってきており、伝える方々が減ってきてしまっています。ですから、私達が後世に伝えていくことにより、いつまでも伝わっていきます。

私は今まで大して力も持っていない中学生がなにかできることなんてないと思っていました。ですが話をたくさん聞き、直接的になにかできるほどの行動力や力を持ち合わせていなくても、みんなに伝えていくことで、核兵器廃絶に向かって私達も貢献できると知りました。これから沢山のの人に伝えていき、核兵器がこの世から無くなれば嬉しいです。

3. 学びの報告

あなたは、平和について考えたことがありますか？今、私達は平和に暮らせています。私は、それを無意識に当たり前と思って過ごしてしまっていました。ですが、今回の広島派遣で、今ある平和を守るために行動していかなければいけないことはなにかを学びました。

(1)平和公園

公園内ではたくさんの場所を回りました。中でも原爆ドームは今回の広島派遣では何度も目にする機会があり、最初は、テレビでよく見るものだと、それくらいにしか思っていました。活動を進め、原爆ドームについて話を聞いたあとは、原爆ドームに対しての意識が変わりました。原爆ドームは、取り壊してほしいという意見が多く、取り壊そうとされていたものだったそうです。ですが、ある少女が書いた日記の、「あの痛々しい産業奨励館だけ

が恐るべき原爆のことを後世に訴えかけてくれるでしょう。」という言葉に心動かされ、その後子どもたちが募金を行ったり、自ら行動し、残されることが決まっていたのです。私はその話を聞いたとき、衝撃を受けました。なぜなら、私のようなまだ未熟な子供にできることなんて本当に小さいと思っていたからです。でも、何もできないと諦めるのではなく、声を上げ、どんなに小さなことでもいいから行動する。それが本当に大事なのだと気づきました。



(2) 私達にできること

私は戦争の映像を授業で見たとき、その悲惨さから涙してしまったことがあります。それからあまり深く調べようとはしてこず、知ることから逃げていたのですが、今回の広島派遣で、この惨状、被爆者の方々の思いはみんなが知ったほうが良いと思いました。資料館で原爆が投下されたときの様子の絵には、まさに地獄絵図のようなものが描かれていました。水に飛び込み、水死する方、彷徨う人々。これが本当に日本で起こったのかと、私は衝撃を受けました。当時の惨状が伝わってきて、思わず逃げ出してしまうくらいです。ですが、こんなことが起きる前になにかできなかったのでしょうか？もし、この戦争が起こる前におきた戦争から学び、それを活かし、戦争ではなくいろいろな国同士で和解できていたらこんなことは起きなかったと思います。ですから、私は、戦争のことをよく知り、受け止め、そこから学びを深め、こんなことを二度と起こさないために、何かしら行動にうつしていきたいと思いました。

ですが、いきなり戦争をやめさせるためにデモをしたり、偉い人に直談判しに行ったりはできません。なので私は、まずは普段から相手の話をよく聞き、取り入れ、だれも不満を持つ人がいないようにしていきたいと思います。将来、私達が大人になり、日本を担っていく存在になったとき、こういった意識を持っていれば、平和を守り続けることができると思います。平和への一歩をともに踏み出していきたいです。

1. 事前学習 「戦後の復興」

(1) 戦後の復興

戦後の日本は、米国や世界銀行をはじめとする国際社会からの支援・融資を受けながら、戦禍で疲弊した国土の再建に努力しました。

～米国からの救済・復興支援～

米国はガリオア・エロアという2つの基金を持っていて、これらの基金で日本は救済・支援を受けました。これらの見返り資金は通貨安定、国鉄、電気通信、電力などのインフラをはじめとする経済復興用低利融資の原資となりました。

～世界銀行の融資～

世界銀行の融資はインフラ及び基幹産業、特に道路、電力、鉄鋼各セクターの整備に大きく貢献しました。

例) 黒部第四水力発電、愛知用水、東海道新幹線など

(2) 広島復興

広島は「広島平和記念都市建設法」という特別法の制定により、国から財政的に手厚い支援を受けて復興を加速させることができました。

1945年8月8日(被爆2日後): 山陽本線(国鉄)広島駅と横川駅間の運転を再開

1945年8月9日(被爆3日後): 一部路面電車区間の運転再開

1945年8月10日(被爆4日後): 上水道の送水ポンプの稼働再開 など...

(3) 事前学習を通して

私は戦後の復興を詳しく調べてみて戦争や原爆投下がどれだけ恐ろしくて、どれだけの被害を及ぼしたかがよくわかりました。これからは、二度とこのような戦争が起きないように、自分自身ができることを考え実行していきたいです。

2. 学びの記録 「広島平和記念資料館」

(1) 概要

広島派遣一日目、私達は広島平和記念資料館を訪れました。館内は当時の様子や被爆した方々の写真など、とても悲惨で残酷な光景が広がっていました。そして、館内では解説を聞きながら見学できたため当時のことをよく知ることができました。

(2) 館内での様子

一瞬にして焼け野原となった被爆地。当時の悲惨さを考えさせられる遺品や被爆した方たちの痛々しい写真。私は館内にあったものを見た瞬間、なんとも言えない気持ちになり涙が溢れてきました。

その中でも私が一番印象に残ったものは被爆者の写真と絵の展示です。写真では皮膚がただれている様子や区別ができないくらいにまで真っ黒に焼けた人、絵では衣服が燃えて裸で歩いている家族の様子など残酷なものが描かれていました。原爆がどれだけ威力の強いもので恐ろしいものなのかをこの目で感じることができました。



その他にも当時被爆した方々が使っていたであろう遺品たちが並べられていて、それらが焼けていたり、服がビリビリになっていたりなど心が締め付けられるものばかりでした。

〈写真／資料館に展示されている遺品〉

(3) 見学して感じたこと・思ったこと

私は広島平和記念資料館を見学して感じたことが2つあります。1つ目は私の平和に対する意識の薄さです。私は資料館での残酷な光景を見て、自分の原爆や戦争に対する理解や思いの薄さ・命の大切さへの軽かった気持ちに気づき、今までの自分に恥ずかしい気持ちを抱きました。2つ目は原爆の恐ろしさです。原爆投下のあと、あまり傷がなかった人や家族を探しに行った人など、みんな放射線などによる影響で病にかかってしまったそうです。そのため、多くの人々の幸せを一瞬にして奪った原爆はこれからも使用されてはいけなし、当時のことについてもっと知るべきだと思いました。

3. 学びの報告

私は今まで広島平和記念式典や原爆についてのニュースを見るたび、「今年もやってるな〜。」という感情しかありませんでした。そして、社会の時間に原爆投下について学ぶ機会があったのですが、そのたびに「アメリカやりすぎ...原爆投下はアメリカが100%悪いな」と思っていました。それは私が原爆への興味が薄かったということと、昔に起きたことは今を生きる私達が知る必要はないと心の隅で思っていたからだと思います。ですが、私は3日間の広島派遣を通してこのような考えは甘かったと感じ、この戦争には正義が存在したということを知ることができました。

今回の派遣で、私は言葉を失ったり涙があふれるほど悲しい気持ちになりました。資料館では原爆の恐ろしさを学ぶことができました。彩りがなくなった被爆地や被爆者の方々の写真が展示されており、とても胸が締め付けられるものばかりでした。これらのことから原爆はこれからも使用されてはいけなし、当時のことについてもっと知るべきだと思いました。そして、私達は演劇を見に行き正義についても学ぶことができました。この劇は戦争と高校生の日常での対立をリンクさせたものでした。原爆投下には、先に日本に攻撃されたアメリカ側の正義とたくさんの人を失った日本(広島・長崎)側の正義があったのです。アメリカ側の気持ちも考えると、原爆投下は本当にアメリカが全て悪かったのかと今までの考え方が変わりました。そして劇の最後ではお互いが相手に歩み寄り理解し合うことで中を深めることができました。このようにどんなことにも正義は存在するため、これから対立が起きても相手の気持ちを理解し尊重することが大切なのだと考えました。

これからは現地で学んできたことを身近な人でもいいから、より多くの人に伝えていきたいです。そして、どんなことでも対立は起きてしまう。そのため、相手のことを理解し尊重するためにも、沢山人との関わりも大切に、いろんな個性に触れていくことも大切にしたいです。



最後に、私はとある言葉に感銘を受けました。それは「願うだけでは、平和はおとずれません」という言葉です。この言葉の通り平和は私達で作っていくものなのです。なので、当時のことについて興味を持ち学び、募金活動やより多くの人に伝えていくなど、今の自分達にできることを精一杯やっていきたいです。そして、この世が少しでも平和に近づけるよう行動していきたいと思えます。

1. 事前学習「現在の世界情勢について」

(1) 戦争・紛争・内戦が子供に与える影響

戦争などが子供へ影響を及ぼす事はたくさんあるのですが、その一つとして、「少年兵」というものがあります。少年兵とは、言葉の通り争いが起こっている場所で大人とともに武装し戦う子供の事です。

2008年のデータでは、世界19カ国で約25万人以上の少年や少女が強制的に武器を持たされて、戦闘に参加していると言われています。

(出典：認定NPO法人テラ・ルネッサンス)

(2) 戦争・紛争・内戦をしている国とその原因

戦争などが起こる原因は宗教や民族などの「違い」によって起きるものもあれば、政権不安定、大国の介入などの「政治」、金やダイヤモンド、石油やウランなどの「資源」によって起こる戦争があります。

アフガニスタン紛争 ; アフガニスタ人民民主党に対する武力蜂起 (政治)

ミャンマー内戦 ; ミャンマー国軍による攻撃 (政治)

スーダン・南スーダン内戦 ; 宗教による対立 (違い)

ロシアのウクライナ進行 ; ウクライナのNATO加盟を阻止するため (政治)

(3) 戦争・紛争・内戦による社会への原因

戦争や紛争などは、社会全体に影響を及ぼします。社会インフラが寸断されて、人々が通常の生活をする事すらままならなくなり、貧困と安全の保証の欠如が起き、更に紛争が発生しやすくなるという悪循環に陥ってしまいます。

貧困、経済、環境、教育などで大きく影響を受けてしまい、戦争や紛争が起こっている国だけではなく、取り巻く国際社会にも大きく影響してしまいます。

具体的には、ロシアのウクライナ侵攻により排出された温室効果ガスは戦闘で886万トン、避難民の移動で140万トン、森林、畑、建物火災で2376万トン、今後のインフラの再建で4867万トン、合計8269万トンにのぼります。

(4) 私達が「今」できる事

私達が今できることは、まずは知る事からだと思います。例えばウクライナがどういう状況なのかを一方的な情報だけではなく、色々な角度から考えてみて色々な事を知ることによって正しい情報を持つことで正しい行動ができるからです。

また、募金活動などがあります。教育では449円で子供用の鉛筆10本とノート10冊、予防接種では679円で使い捨ての注射器100本、これにより100人の子供たちが安全な器材で予防接種を受けられます。栄養では91円でビタミン

やミネラルが含まれた微量栄養素パウダー30袋、保健では、761円で1錠で4～5リットルの水を浄化できる浄水剤1000錠が買えます。

私達ができる事は少ししかなく、とても小さいことですが、その小さな行動一つで子供一人の命につながったり、少しでも戦争の期間が短くなったりするかもしれません。今すぐ戦争をなくす事はできませんが、募金や支援団体などを通じて平和な社会に少しでも貢献をしていきましょう。



〈引用元/SDGs 16〉

2. 学びの記録「広島平和記念公園」

広島派遣の2日目、私達はボランティアガイドさんとともに平和記念公園を回りました。

公園の中にある全てのオブジェクトには、原爆の悲惨さや平和への願いが込められており、平和とのシンボルとなっています。

（1）原爆の子の像

この像は、2歳のときに被爆した佐々木禎子さんが10年後に白血病で亡くなったことをきっかけに、同級生たちが「原爆で亡くなったすべての子どもたちのために慰霊碑をつくろう」と呼びかけ、全国の3200余りの学校や世界9か国からの寄付などにより、1958年5月5日に完成したものです。

像の周りには、全国各地から奉納された千羽鶴から平和への思いが伝わって来ました。

〈写真/原爆の子の像〉



（2）原爆死没者慰霊碑

原爆死没者慰霊碑（公式名は広島平和都市記念碑）は、昭和20年（1945年）8月6日、世界最初の原子爆弾によって壊滅した広島市を平和都市として再建することを念願して設立したもので、ここに眠る人々の霊を雨霧から守りたいという願いから、埴輪（はにわ）の家型に設計されました。

慰霊碑の中央には「安らかに眠ってください 過ちは繰返ませぬから」という言葉が刻まれています。

〈写真/原爆死没者慰霊碑へ黙祷〉



3. 平和の鐘

平和の鐘は、核兵器と戦争のない平和な世界を達成するためのシンボルとして、1964年に建立されました。

鐘の音が世界の隅々まで響き渡ること、全人類ひとりひとりの心に沁み渡ることを目指しているため、誰でも自由に突くことができます。

周りには、ハスが植えられていて、被爆当初、被爆者の方々は傷跡にハスの葉をあてて痛みを和らげようとしていたので、ハスが植えられています。

<写真/

平和の鐘を鳴らす平和大使 5人>



<参照サイト>

総務省 一般戦災死没者の追悼-追悼施設-原爆の子の像

ウィキペディア 原爆死没者慰霊碑

広島平和記念資料館-平和記念公園・周辺ガイド（碑めぐり解説）-8. 平和の鐘

3. 学びの報告

私は広島に行く前までは「戦争なんて国のトップの人がはじめるもので、私は何もしなくていい」という考えでしたが、広島に行って「戦争は遠い昔の話ではないんだ」や「私達にもできることはあるんだ」という考えになりました。なぜこのような考え方になったのかを説明していきたいと思います。

広島には原爆資料館があり、そこには原爆によって亡くなられた方々の遺品や絵、写真などがありました。私は資料や写真を見て「戦争はこのように罪のない人々を殺すんだな」と思い、今も続いている平和のありがたさを感じました。また、資料館に訪れている外国人が泣いている姿を見て、胸が痛くなりました。

平和記念式典での、こども代表の言葉で「願うだけでは平和は訪れません」という言葉が特に心に残りました。今の子供や若い人達は戦争を知らないで、ただ平和のほうがいいなと思っているくらいだと思います。私もそうでした。ですがこの言葉を聞いて私は戦争を知って、それを周りの人に広めていこうと思いました。戦争を経験した人は日に日に減っていきます。戦争を経験していない私達が戦争について語り継いで、平和をつないでいかなければなりません。しかし、急に戦争について人に語れと言われても急には語れないと思います。家族、友人などの身近な人から話し始めることで、その家族や友人がまた違う人に話していき、だんだんと語り繋がれていくと思います。

私達は、私達ができることをいち早くする必要があります。そして、私達は平和をつなぎ、次の世代につなぐ義務があります。ぜひ、私達平和大使と一緒に、戦争の悲惨さや核爆弾の恐ろしさ、平和へのありがたさを次の世代に繋いでいきましょう！

1. 事前学習 「広島原爆投下の背景」

(1)原爆が日本に投下された理由

アメリカは、当時、日本をできるだけ早く降伏させアメリカ軍の犠牲を少なくしたいと考えていました。また、日本に原爆を投下し、戦後、世界で優位に立ちたいと考えていました。さらに、20億ドルの経費と最大時には12万人以上を動員して開発した原爆が戦争終結につながったとアメリカ国内向けに正当化する必要もありました。

(2)投下目標にされた都市とその理由

- | |
|---|
| 1. 直径3マイル(約 4.82 キロメートル)以上の大規模市街地を有する重要な目標であること |
| 2. 爆風で効果的な損害を与えられること |
| 3. 8月までに攻撃を受ける可能性が低いこと |

これら3つの条件に当てはまっている広島・長崎・小倉・新潟が投下目標の都市となりました。投下当日に晴天であった長崎・広島が最終的な投下対象となってしまったのです。ですが、この4つの都市以外にも東京湾、川崎、横浜、名古屋、大阪、神戸、京都、八幡、小倉、下関、山口、熊本、福岡といった場所も候補に上がっていました。どこの地域に原爆が投下されてもおかしくない本当に恐ろしい状況だったのです。

(3)事前学習を通して

原爆投下について詳しく調べ、多くのことを知っていくうちに本当に原爆は恐ろしいものだと思います。原爆を落としたことは決して許すことができないし理由を正当化することもできません。これから二度とこのようなことが起きないように核兵器の取り締まりなど力を入れていくべきだと思います。



〈写真／おりづるタワーから見た原爆ドームと
広島市の街並み〉

2. 学びの記録 「ヒロシマの心を世界に 2024」

広島市立舟入高等学校演劇部の皆さんによる演劇「セミの聲」を鑑賞しました。

(1) 内容

演劇部の高校生5人が伝統である原爆劇をやるかやらないか揉める中で、お互いの原爆に対する知識、考えを伝えることで、ひとりひとりの正義を認め合おうという考えを持つようになりました。

(2) 演劇から考えたこと

この演劇を通して、自分の意見がすべて正しいと思わず多角的に物事を見ることが大事だと思いました。自分が正しいと思いこんでいるせいで、相手の意見をよく聞いていない事がよくあると思います。それは戦争でも同じだと思いました。原爆投下について私は「原爆を落とすなんて行為はただの非道に過ぎない」と思っていました。しかしアメリカからしたら「先に真珠湾を攻撃されたことが許せない」、「戦争で生活が苦しい」、「知り合いが亡くなった」など同じように苦しい思いをした人がたくさんいます。このような事実を原爆投下が許せないと思う一心で無視していたことに気づきました。両国戦争によって苦しい思いをしていたのです。なぜわたしたちは自分から茨の道を選択するのでしょうか。戦争で問題を解決しようとしていては、世界が平和になることは永久にないと思います。物事を決めるとき的手段として戦争はあってはならないことです。戦争をしないためには話し合いが必要です。もちろん話し合いですべてが解決するわけではありませんが、相手の気持ちを理解しようとするのが本当に大切です。まずは相手の立場に立って、一度視点を変えて見るということを日常から大切にしていきたいです。



〈写真／演劇が始まる前の会場の様子〉

3. 学びの報告

私はこの広島派遣を通して、平和とは何なのか考えることができました。

平和記念式典に参加してきた際、印象に残った言葉があります。こども代表の「願うだけでは平和は訪れない」という言葉です。私はこの広島派遣に参加するまで平和のために何をしたらよいかわからない状態でした。むしろ、今までは戦争など遠い昔の話、これから先二度と起こらないことだとすら思っていました。しかしこの言葉を聞いてハッとしました。まだ世界は平和ではないこと、戦争が起きている国は確実にあることは紛れもない事実なのだと改めて思いました。

唯一の被爆国である我々日本国民だからこそ原爆についての歴史を語り継ぎ、日本で戦争が起こっていない「今」、平和のため行動していく必要があると考えました。日本でも絶対に戦争が起こらないという保証はないのです。絶対に戦争を起こしてはいけないという強い気持ちをすべての人が持ち、「言葉で伝える」ことの大切さを知ってほしいと思います。本当に大事なことは他人を傷つけてまで、自分の意見を通すことではなく、お互いに折り合いをつけて、誰もが納得する結果になることだと思います。

これから先、どんな状況であっても戦争はしてはならないという考えが日本だけでなくこの地球という広い世界で当たり前になるために、この経験を多くの人に語り継いでいこうと思います。そして私の話で一人でも多くの人に戦争、原爆はただの歴史上の出来事ではなく、実際あったことだと強く意識し、平和な世界を目指す人が増えてほしいと思います。

引率者レポート

(引率者)学校教育課 指導主事 小林大介

「平和」を実現するために

広島平和記念資料館を訪問した際、展示物を途中で見るができなくなった平和大使がいました。その生徒は、「1つ1つの展示からあまりの悲惨さに直視できなくなっていった」「そこにいた人々の気持ちを想像して自分と重ね合わせて考えたら苦しくなってしまった」、このような気持ちを話してくれました。これまで歴史の話でどこか自分とは関係がないと思っていたことが、展示の内容によって生徒の心に直接戦争の現実が投げかけられた時間でした。被爆体験者のお話、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館の映像などからも、原爆の、戦争の現実について感じる、考える時間となりました。

今も現実社会からは戦争がなくなりません。原子爆弾は数多くあり、開発されています。

広島平和記念式典にイスラエルの代表が招待されたことに疑問の声も出ていました。

「平和」とは何でしょうか。平和を説明する際、「戦争がない状態」と説明する人が多くいます。だけど、戦争がなければ平和なののでしょうか？確かに戦争は、あまりにも悲惨な状況を生み出します。それを今回広島の地で感じ、学ぶことができました。

そもそも、何で戦争が起こるのでしょうか？なくなるのでしょうか？

今年も、広島市立舟入高等学校の演劇を観ました。劇では、高校生同士の意見の対立が描かれていました。「あの人に話しても仕方ない」このセリフ、もしかしたら身近なところでもよく耳にするかもしれません。そして自分も言っているかもしれません。でも、この言葉がある限り、対立は埋まらないし、むしろ深くなっていきます。何とかしたいとは思っていても、原因を相手の側に求めてしまうものです。劇では、当事者が対立を乗り越えるための一歩踏み出す勇気とともに、その一歩が必要であることを周りの人が伝えたり、その一歩に向けて背中を押したりする様子が描かれていました。

広島平和記念式典で聞いた、「願うだけでは平和はおとずれません」の言葉に震えました。二度と戦争が起こりませんように、核兵器が使われませんように、私たちは願います。そして、願いにも力もあります。だけど、それだけでは平和はおとずれない、自分が一歩踏み出すことが必要だ、というメッセージには、とても強い力がこもっていました。

一歩踏み出すためには考えないといけません。
考えるためには興味をもたないといけません。
興味をもつためには周りを見ないといけません。

その中で、自分とは違う考えの人にも出会うと思います。その時、「理解できない」「おかしい」と切り捨ててしまうと、対立が生まれてしまうと思います。まずは、相手を知ろうとすること、理解しようとする。これが共感です。ただ、共感するということは、それが正しいと思うことではありません。相手のことを知った上で違うと思う、ということも大切です。ただ、違うから攻撃するわけではありません。違うことを知ったからこそ、共存するために方法を考えて行動する必要があるので。

平和大使の皆さんは、広島で感じたこと、学んだことが、広島でのできごとではなく、自分が生活する燕での生活にもつながっているできごとだと感じることができたでしょうか？そして、日常の生活で、平和を実現する行動をとることができていますか？自分が仲が良い人が、「あの人はおかしい」と他の人のことを言っていたらどうしますか？

人は忘れてしまうものです。
だからこそ、たまに立ち止まってこの報告書を見直してみてください。
平和大使として過ごした日を思い出して、勇気もらえるはずですよ。
あなたの一歩が周りの世界を平和にする。

(引率者)学校教育課 主任 八子芽生

戦争を「伝え、広めること」

皆さんの「広島」に対するイメージはなんでしょうか。私が思い浮かぶのは子どもの頃の夏休みの光景です。遅い朝ごはんを妹と食べていると、テレビには広島からの中継が映っています。「黙祷」の声に合わせ、母は頭を下げ、目をつぶります。私が思い出す、8月6日の朝の光景です。

出発前、現地の交通手段を調べたり、平和公園内の建物の位置を確認したり、下準備は色々しましたが、「平和学習」という意味では、私も平和大使も変わりありません。長旅を経て目にした原爆ドームの感想は「わあ、これが、あの！」でした。観光気分が混じっていたことは否めません。しかし8月の広島は、知るべきこと・学ぶべきことが数多くありました。

広島平和記念資料館では、個人に焦点をあてた展示が印象的でした。「大勢の被害者」ではなく、そこに生活があり、家族があり、生きていた〇〇さんの記録です。あの日までの生活の様子、爆弾で受けた被害、最期の様子、そして遺品が展示されている人もいました。原爆の被害者数はその年だけで「推定 14 万人」ですが、「推定」なのは、あまりに規模が大きくその場に居合わせた人の把握が困難なことや、行政の記録が同時に失われたことが要因だそうです。「生活するその頭上に爆弾を落とすなんて、なんてひどいことをするんだ！」と率直に思いました。

講和をいただいた花谷さんのお姉さんは、原爆投下時、爆心地のすぐ近くの職場にいました。連絡もとれなかったお姉さんが、数日後に大したケガもなく歩いて帰ってきた時の家族の喜びはどれほどだっただろうと想像します。きっと「奇跡だ！良かった！」と抱きあったことでしょう。しかし白血病により8月末に亡くなってしまいます。お話を聞き、原爆の残酷さを改めて考えました。

広島派遣の最終日程である8月7日の朝、広島の街は前日までの喧騒も少し落ち着き、観光客だけでなく出勤する人も多くみられました。日常の風景を眺めながら、「今、私の頭上で原子爆弾が爆発したら。」と、ふと考えました。そしてそれは、79年前実際に起こったことなのです。

5人の平和大使たちの様子は様々でした。事前学習で「核禁止条約に参加しないのはしかたがない」と考えたけれど、被爆者の想いは違くと学び「う～ん」と悩む姿がありました。心が重たくなる広島平和記念資料館の展示を、最初から最後まで時間いっぱい見ていた生徒もいました。初めてみるデモ行進に驚いている様子がありました。通り

かかった「被爆ピアノ」を見つけ、「見てきていいですか！」とかけ寄る場面もありました。

彼らは、「自分は未熟な子どもであり、そんな自分に何ができるだろうか」と自問します。では「大人」にできること、「私」にできることはなんでしょうか。

まず、私は「無関心でないこと」ができます。学校教育課から異動し離れても毎年の「8月6日」に、今回広島を訪れたことを思い出さないことはないでしょう。

また、「伝え、広めること」ができます。広島を訪れ、私自身が語ることでできる戦争について思い至りました。90歳を超えた私の祖父は、兄2人が戦死しています。うち1人は、海軍への招集が決まり出征するまでの間、竹筒を浮き輪に川で泳ぎの練習をしていたそうです。「死にたくなかったんだろうなあ。」と祖父は語っていました。広島に限らず、この国は戦争を経験しました。状況は様々であっても、世代を少しさかのぼるだけで、祖父のように「家族を戦争で失う」体験した人がいます。前述の広島で見聞きしたことと一緒に、「伝え広めること」を忘れないでいようと思います。

最後に、5人の平和大使には、3日間の派遣だけでなく、報告会の発表や報告書の作成等、多くのことをお願いしました。学校生活・勉強・部活動と両立してやりきってくれた5人に感謝と賞賛を送ります。また、何度も送迎にご協力いただき、遠く広島に送り出してくれた保護者・ご家族の皆様、平和大使の選出に始まり、各場面で協力いただいた各中学校の教職員の方々にお礼申し上げます。

広島平和記念式典派遣事業の概要

広島平和記念式典派遣事業の概要は次のとおり。目的を理解し、有意義な学習活動となるよう留意する。

(1) 目的

非核平和宣言都市推進事業および平和学習活動実施の一環として、広島平和記念式典をはじめとするさまざまな催しに、次代を担う中学生を派遣することにより、国際的な視点で命の尊厳や平和の尊さについて理解できる生徒を育成すること。

(2) 主な活動内容

- ①広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式への参列
- ②広島平和記念資料館、原爆ドーム、原爆死没者慰霊碑等の見学
- ③原爆の子の像に各校で制作した千羽鶴を奉納
- ④被爆体験講話の受講
- ⑤とうろう流しへの参加
- ⑥市民への報告（市内会場で報告会を実施）
- ⑦全校生徒への報告（各学校で報告会等を実施）
- ⑧報告書の提出

広島派遣時

派遣後

1. 派遣事業参加中の役割分担

自主的な学習活動を進めるため、役割分担をする。

役割分担の内容		氏名（中学）
(1)	ミーティング・被爆体験講話司会	森口 迅（吉田中）
(2)	記録（見学・訪問先等）	富岡 来愛（燕北中）
		田野口 茉緒（小池中）
(3)	被爆体験講話講師へお礼のことば	渡邊 恭嘉（燕中）
(4)	引率者との連絡調整	須田 琳音（分水中）

2. 学習の過程および分担

より有意義な体験にし、各学校の全校生徒へより効果的に伝えるため、「事前の学習」、「学びの記録」、「学びの報告」という3ステップで学習活動を進める。

(1) 事前の学習

事前に以下のことについて学習し、より充実した体験とする。

- | | |
|--------------|---------------|
| ①日程および資料の確認 | (担当： 全 員) |
| ②被爆体験者への質問 | (担当： 全 員) |
| ③核兵器禁止条約について | (担当： 全 員) |
| ③太平洋戦争戦時下の生活 | (担当： 渡邊 恭嘉) |
| ④広島原爆投下の背景 | (担当： 須田 琳音) |
| ⑤原爆の被害・惨状 | (担当： 田野口 茉緒) |
| ⑥戦後の復興 | (担当： 富岡 来愛) |
| ⑦現在の世界情勢 | (担当： 森口 迅) |

(2) 学びの記録

以下の項目について担当がそれぞれレポートとしてまとめる。

- | | | |
|--------|-------------------------------------|---------------|
| 広島での学び | ① 広島平和記念公園 | (担当： 森口 迅) |
| | ② 広島平和記念資料館 | (担当： 富岡 来愛) |
| | ③ ヒロシマの心を世界に 2024 | (担当： 須田 琳音) |
| | ④ 被爆体験講話 | (担当： 田野口 茉緒) |
| | ⑤ 広島平和記念式典
(広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式) | (担当： 渡邊 恭嘉) |

(3) 学びの報告 (まとめ)

参加前の学習や実際に3日間の研修に参加して得たものや感じたこと、また、これらの経験を受けて、全校生徒や周りの人に伝えたいことをまとめる。

3. 広島平和記念式典派遣事業報告会

日 時：令和6年9月1日(日) 午前10時30分から11時30分

場 所：燕市役所 つばめホール

～ 広島平和記念式典派遣事業の様子～



被爆体験講話 (8/5)

花谷昌孟様から、ご家族の被爆のこと、自宅の旅館で被爆者の手当や救護にあたったお話を伺う。



千羽鶴の奉納 (8/5)

みんなの願いを原爆の子の像に奉納

広島市原爆死没者慰霊式並びに
平和祈念式に参列 (8/6)



現地のボランティア
ガイドによる平和記念公園
の見学 (8/6)

ヒロシマの心を世界に
2024見学 (8/6)

広島市立舟入高等学校演劇部
による演劇鑑賞



とうろう流しに参加 (8/6)
恒久平和に願いを込めて



おりづるタワーを見学 (8/7)
おりづるの壁におりづるを投入し
平和を祈願

被爆アオギリ二世

被爆アオギリ二世の親木のアオギリは、爆心地から北東 1.3 kmにある中国郵政局の中庭で被爆しました。爆心地側の幹半分が熱線と爆風により焼けてえぐられましたが、焦土の中で青々と芽を吹き返し、被爆者に生きる希望を与えました。その後、このアオギリは 1973(昭和 48)年に平和記念公園内に移植され、今でも樹皮が傷跡を包むようにして成長を続けています。

被爆アオギリ二世は、このアオギリの種から育てられたもので、「平和を愛する心」、「命あるものを大切にする心」を育み、平和の尊さを伝えるとともに、過ちを再び繰り返さないよう、被爆の実相を後世に伝えます。

燕市 平成 30 年 4 月 植樹



令和 6 年度 広島平和記念式典派遣事業
平和大使 活動報告書

派遣期間：令和 6 年 8 月 5 日（月）～7 日（水）

燕市教育委員会学校教育課